



Monthly Wacco

発行 ● 狛江市市民協働課
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0012 狛江市中和泉 3-2-16
プランツベルツ 201
☎ 3430-6617 FAX3430-6743
Email=wacco@k-press.net
Homepage=http://www.k-press.net/

2006
平成18年

12



住宅地をぬって流れる岩戸川せせらぎ

岩戸南

早く訪れた都市化の波



車の流れが続く世田谷通りは、かつての六郷用水

1 岩戸地域センター

岩戸地域センター(2-2-5)は地域の文化活動や住民の交流の拠点として昭和53(1978)年に開館した。鉄筋コンクリート造り2階建ての床面積806㎡で会議室、料理実習室、和室2室、図書室がある。

同館を活動の拠点にしている岩戸親睦会(秋元防人会長)は、昭和52(1977)年に青年団を母体として発足した。年齢を問わず岩戸地域の住民が交流し、八幡神社の祭礼やイベントなど、岩戸のコミュニティづくりの「縁の下の力持ち」役を果たしている。現在、会員は24歳から84歳まで185人で、ゴルフ、ボーリング、カラオケ、ハイキング、釣り、お雛子を保存する郷土芸能部の部会と、地域の祭を推進する総務部がある。ことし6月に30周年を記念し、狛江市



岩戸地域センター

2 岩戸川せせらぎ

岩戸川緑地公園は、地元で「大川」と呼んで農業や生活用水として使われた岩戸川を埋め立てた跡に造られた長さ1.8kmの緑道。

岩戸川せせらぎはその途中にある人工の小川で、平成4年に造られた。全長126m、幅約1.5mの流れに沿って木を植えるとともに、遊歩道が設けられ、街のオアシスとして親しまれている。



に車イス17台(写真)を寄贈した。

同館を活動の拠点にしている岩戸親睦会(秋元防人会長)は、昭和52(1977)年に青年団を母体として発足した。年齢を問わず岩戸地域の住民が交流し、八幡神社の祭礼やイベントなど、岩戸のコミュニティづくりの「縁の下の力持ち」役を果たしている。現在、会員は24歳から84歳まで185人で、ゴルフ、ボーリング、カラオケ、ハイキング、釣り、お雛子を保存する郷土芸能部の部会と、地域の祭を推進する総務部がある。ことし6月に30周年を記念し、狛江市

に車イス17台(写真)を寄贈した。

に車イス17台(写真)を寄贈した。

3 明静院

岩本山清岸寺 明静院(2-10-13)は天台宗に属する深大寺の末寺で、縁起によると、享禄3(1530)年に開かれたと伝えられる。江戸時代の文献には「岩戸山」とも記されている。現在の本堂と客殿は昭和54(1979)年に建設されたもの。

本尊の阿彌陀如来(写真下)は高さ約60cmの座像で、張堂完俊住職によると昨年調査した結果、顔の部分は平安時代末期の市内最古のものと考えられた。また、現在修復中の



明静院本堂

薬師如来像の体内から天正2(1574)年の制作を示す文書が発見されたという。先々代の坂戸公頭住職は、大正から昭和にかけて女性問題研究家として婦人の地位向上に尽くす一方、音頭「狛江よいところ」を作詞したり、「狛江文化会」の中心的存在として地域の文化の向上に貢献した。墓地に顕彰碑がある。東隣には岩戸の鎮守の八幡神社(2-8-2)がある。秋祭や元日のもちつきなどには多くの人が訪れる。



本尊の阿彌陀如来(写真下)

4 こまえ苑

こまえ苑(4-17-17)は、狛江市初の高齢者福祉施設として平成7(1995)年にオープンした。鉄筋コンクリート造り地上3階・地下1階建て、のべ床面積4,930㎡で、社会福祉法人狛江福祉会が、特別養護老人ホーム、高齢者デイサービス、在宅介護支援などの事業を行っている。

同苑には、多くの市民ボランティアが訪れ、入所者との交流や各種の事業の手伝いなどを行っている。土曜日午後1時から開く苑内の「喫茶いちよう」もそのひとつ。毎回、数人のボランティアが約50人の入所者のためにお茶と菓子を用意、注文をとって運び、話し相手などを務めている。

同苑では、特養ホームやデイサービスの利用者の活動の手伝いや話相手、配膳、洗濯物たたみなど、さまざまなボランティアの申し込みを随時受け付けている。問い合わせは ☎3489-2404こまえ苑ボランティア担当。



喫茶の準備をするボランティア

5 石橋供養塔

世田谷通りの一の橋交差点にあり、市内3カ所にある石橋供養塔(写真)のひとつ。文政6(1823)年に立てられたもので、高さ93cmの石柱の表面には、弘法大師の像と道しるべの役を果たす「東六郷・江戸道」などの文字が彫られている。石橋供養塔は、橋の建設や改修の時に立てることが多い。



世田谷通り南側の歩道部分は昭和47(1972)年ごろまで六郷用水が流れていたが、道路の拡幅とともに暗きよ化されるとともに橋も姿を消し、現在では、この供養塔と「一の橋」「二の橋」などの交差点の名がかつてのおもかげを伝えている。

● 岩戸南の地域データ ●
18年1月1日現在
面積 0.582km²(市域の10.06%)
(市内3番目)
世帯数 4,134(市内3番目)
人口 9,085人(市内3番目)
男4,544人、女4,541人
人口密度 15,610人(市内2番目)
●人口密度が西和泉に次いで高いのが特色。



6 家庭文庫いこいのみぎわ

いこいのみぎわ(4-24-23)は、保育士をしていた神由喜江さんが定年退職後の平成16年に開いた家庭文庫。毎週木曜日午後2時~5時に開設している。

文庫に利用しているのは、三方に本棚を置いた自宅の6畳とリビング・ダイニングルーム。初めは本棚を置いた部屋で読み聞かせと本の貸し出しを考えていたが、利用する子たちが、折り紙や工作などをやりたがり、開放部分が広がった。いまはダイニングテーブルで不用になった箱を使って工作をしたり、ピアノを弾いたり、犬と遊ぶ子など、子どもの城の雰囲気。



折り紙を教える神さん

蔵書は幼児向けの絵本や児童書など約2,000冊。利用は、最初に登録して借り、原則として2週間以内に返す。神さんは上京したばかりのころ、国分寺市で家庭文庫を

見て、いつか自分でもやりたいという夢を抱き、勤務先の保育園で本を購入するとき、自分の分も注文するなど文庫開設の準備をしてきた。約20年前に狛江へ転居してきたが、勤めが都心だったため地域とのかかわりが薄

かった。文庫を開いてからは、多くの知り合いができたという。利用しているのは近くの幼稚園に通う子どもと母親や、第六小学校の児童が多い。幼稚園時代に初めて利用して以来、小学生になっても通ってくる子もいるという。利用者は、図書館よりゆつくり本が選べるし、神さんに子育ての話を聞いてもらったり、同じ年代の子を持つお母さんとおしゃべりできるのが楽しいと喜んでいる。神さんは「ここでのんびり過ごすうちに、本が好きになってくれればうれしい」と話している。問い合わせは ☎3489-5093神さん。